

Q2

どのような症状があって
放置するとどうなる？

バセドウ病は20代、30代の女性に多く、^{どうき}動悸や指の震え、多汗、イライラ、疲れやすさ、首の腫れなどが見られます。橋本病は30代～50代の女性に多く、寒がり、むくみ、うつ気分、記憶力低下などが見られます。どちらも体調不良や更年期症状と似ているので病気と気付かれないことも多く、心身が不安定な状態が続きます。

甲状腺機能の異常は生理不順や不妊の原因になることがあります。また、甲状腺機能の異常がある状態で妊娠は、流産や早産のリスクが高まるといわれています。しかし、治療を受け甲状腺ホルモンの状態が安定していれば、問題なく妊娠・出産が可能です。胎児への影響の心配がない薬もあります。

Q3

何科で受診すればいい？
検査のタイミングは？

甲状腺ホルモンの値を調べる方法は血液検査です。通常健康診断の検査項目には含まれていないため、体調不良が続くときは内科を受診し、甲状腺ホルモンの値を調べてもらいましょう。また、生理不順や不妊の方は産婦人科を受診し、甲状腺ホルモンの値を含んだ検査を受けるとよいでしょう。

治療は、必要に応じてホルモンの産生を抑えたり、ホルモン補充を行います。ホルモン値が安定すれば、体調不良も改善されます。



職場ではどのような配慮ができる？

女性特有の体調不良に理解を！

甲状腺機能の異常が見つかった方の多くは、「更年期だと諦めていた」「生理前後だから不調なのは仕方がないと思っていた」「しばらくすれば治る」など、体調不良を大きな問題と捉えていませんでした。健康診断に甲状腺の検査は含まれていないため、体調不良が続くようなら血液検査を勧めてみるのもいいでしょう。

また、生理痛やPMS（月経前症候群）への理解が広まってきたように、女性に多い甲状腺機能の異常による体調不良の理解を高めていくことも、働きやすい職場には欠かせない配慮の一つになります。



みんなで学ぶ 女性の カラダと健康

今回の教えて！ 甲状腺の病気

女性の30人～60人に1人は甲状腺の病気にかかっているといわれていますが、異常に気づきにくいのが現状です。適切な検査や治療が受けられるよう、まずは知ることから始めましょう。



監修 / 上原萌美

日本産婦人科学会専門医。日本がん治療認定医。横浜市立大学医学部卒業、横浜市立大学産婦人科などの勤務を経て、よしかた産婦人科・網島女性クリニックへ。産婦人科系のトラブルや妊娠・出産、育児の関連サイトの監修も務める。

Q1

甲状腺ってどこにあるの？
なぜ女性に多い病気なの？

甲状腺は、喉仏の下にある10g～20gほどの小さな臓器で、代謝や交感神経を活発にするホルモンを産生する働きがあります。甲状腺機能の異常で多い病気は次の2つです。

- ① バセドウ病（ホルモンの産生過剰）
- ② 橋本病（ホルモンの産生不足）

どちらも免疫が自分の甲状腺を攻撃してしまうことで起こる自己免疫疾患です。自己免疫疾患は一般的に、男性よりも女性に多く発症します。

成人女性の発症頻度は、バセドウ病は1,000人に0.2人～3.2人、橋本病は10人に1人で、遺伝と環境の両方が関与して発症します。親族の中にバセドウ病や橋本病の方がいる場合、ご自分も発症する可能性が少し高まるといわれていますが、必ず発症するわけではありません。

